

申6号「政策フォーラム提言・職場改善運動」での 組合員の声実現に関する申し入れ交渉 その①

1. 館鼻岸壁朝市号の運行を朝市開催期間の通年運転とすること。

→会社回答：臨時列車の設定については、お客さまのご利用状況等を踏まえ設定しているところである。

〔組合〕八戸支部の政策提言が実現し、職場でも大変喜んでいる。今回の臨時列車を走らせる考えに至った根拠は？また、通年運転の判断はご利用状況が影響するのか？乗降人数は調査しているか？

〔会社〕朝市を利用してもらう事での観光流動の創出や、東北DCの一環として今回初めて臨時列車の設定を行った。通年運転の判断は、ご利用状況だけで判断するものではなく、総合的に判断していく事になる。調査は行って、多い日で40名程度、少ない日で15名程度である。

〔組合〕我々としても昨年乗降調査を行ってきており、調査やアンケートを見ると、昨年末は県外のお客さまが朝市に足を運んでいるが、今年度は地元の方の利用が多く、緊急事態宣言の影響もあり県外の来客は少ない。観光流動が目的なのであれば、コロナ禍の状況も鑑みて中長期的に見ていく必要があるし、多くのお客さまがご利用できるよう、宣伝などを強化していくべき。

〔会社〕お客さまの認知度を上げていく事や、地域の観光協会とも意見交換も行ってきている。地域の活性化のため継続していく事で認知度も上がっていくと考える。

〔組合〕認知度を上げるためにも、朝市は12月まで開催されるため、開催期間中は朝市号を運行しご利用状況を見ていくべき。

〔会社〕9月末までの運行は決まっているが、それ以降は状況を見た上で判断となる。

2. 宮古の社宅1号棟の空いている部屋を活用し、三陸鉄道へ貸し出すこと。

→現時点で貸し出しする考えはない。

〔組合〕黒字化にむけて既存の社宅の有効活用と、三鉄との継続した震災復興支援の中でこのような提言が出されている。ひとつのアイデアとして受け止めてほしい。宮古社宅の将来展望をどのように考えているか？

〔会社〕宮古の社宅は、現在約50%の使用率。社宅は福利厚生施設であり、その目的のもとで使用している。国鉄からの建物であり、老朽化している事から状況を見極めて、廃止なども検討していく事になる。内容は受け止める。

3. 三鉄応援列車としてJRと三陸鉄道相互乗り入れ運転列車を定期的に運行すること。

→臨時列車の設定については、お客さまのご利用状況等を踏まえ設定しているところである。

〔組合〕コロナ禍で収入が少ない中、地方ローカル線も工夫した列車運行をする事によって、利用促進と増収に繋がると考える。

〔会社〕三鉄との相互乗り入れは例年行っていて、今年も7月、8月に計画している。三鉄のみならず市町村にも参加してもらい、三陸海岸の魅力、車内イベントなど複合的な要素も入れながら計画していく。

東労組として黒字化に向けたアイデアを議論し、認識を合わせてきました。
実現に向け職場から実態調査や検証運動を継続的に創り出していこう！

